

ウィズコロナから アフターコロナの健康づくり

— 新型コロナウイルス感染症からわかってきた最新の事実 —

コロナ × 健康づくり

シンポジウム

概要

開催日：令和5年7月22日
場所：テクスピア大阪 大ホール

第1部：3人の講師からの講話
第2部：市長と講師のディスカッション



泉大津市長 南出 賢一

新型コロナウイルス感染症からわかってきた最新の事実

新型コロナウイルス感染症の感染経路上の位置づけが5類に移行されました。しかし、現在も後遺症やワクチン接種後の体調不良で悩んでおられる方がおられ、相談が後を絶ちません。

また、秋からは5歳以上を対象にワクチン接種が始まりますが、今後の接種について疑問や不安を持たれている方も増えています。

そこで今回、新型コロナウイルス及びワクチンなどに関する世界の状況や最新情報などについて、講師からお話をお聞きし、第2部では、これまで市が実践してきた独自の「コロナ対策」を振り返り、現場で起こっていることやわかってきた事実、これからの健康づくりについて市長とディスカッションしました。



当日のシンポジウム動画はこちらから

泉大津市独自のコロナ後遺症・ワクチン副反応対策



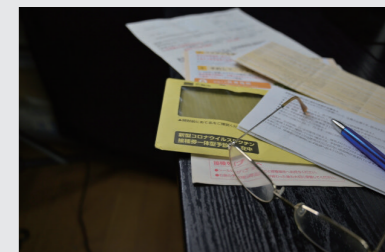
オンライン相談

西洋医学だけでなく、東洋医学など幅広い知識と専門性を有する医師に、パソコンやスマートフォンから相談できます。



後遺症改善プログラム

統合医療に造詣の深い医師らが立ち合い、自然療法をはじめヨガや整体などの技術を用いて自己治癒力を高め、症状の緩和、改善を目指すプログラムです。



新型コロナウイルスワクチン健康被害支援金

新型コロナウイルスワクチン接種後に副反応（副反応疑いを含む）などで健康被害を生じ、国の予防接種後健康被害救済制度を申請される方に、申請までにかかった医療費等の費用の一部を泉大津市独自の「支援金」として支給します。

上記詳細とそれ以外にも、健康相談（保健センター）や新型コロナウイルスワクチン接種後の体調不良や長引く副反応の相談窓口（市内6医療機関）もあります



相談窓口・関連リンク
（市ホームページ）

新型コロナウイルス感染症・ワクチンに関する相談先

新型コロナウイルスに関する健康相談

大阪府コロナ府民相談センター
TEL 06-7178-4567
24時間対応

厚生労働省電話相談窓口
TEL 0120-565-653
午前9時～午後9時（土日祝含む）

新型コロナウイルスワクチンに関する相談

大阪府コロナワクチン専門相談窓口
TEL 050-3613-9605
午前7時～午後10時（土日祝含む）

厚生労働省新型コロナウイルスワクチンコールセンター
TEL 0120-761-770
午前9時～午後9時（土日祝含む）

泉大津市民の相談・問い合わせ先 泉大津市立保健センター（泉大津市宮町2-25）
TEL 0725-33-8181 平日午前8時45分～午後5時15分（年末年始除く）

Discussion 市長 × 講師

「とにかく、事実を伝える、知ってもらう。自ら判断する力を養う。免疫力をあげるからだづくりが大切」

南出…とにかく、事実を伝えるということ。市民に事実を知っていただいたうえで、ちゃんと自分で選択してもらおう。流されないことが大事だと思っています。

豊田先生、コロナ後遺症とワクチンのいわゆる後遺症と、もう一つ接種後感染後遺症があると思うのですが、市が実施している、後遺症改善プログラムで、実際50人ほどの人を診てきて、何か違いはありますか。

豊田…コロナに普通にかかった方が早く治り、その次にワクチンを接種して何か副反応がでた人、一番長引くのは接種後感染です。恐らくですけども、ワクチンの接種によってスパイクタンパクを出し続けて体が消耗している、そこに感染を起こすことで症状が長引いているのではないかと思います。

村上…私の友人は、ブースター（追加）接種後に半年くらいでコロナ感染して、1回治ったんですが、半年間不調が続いたため、調べたら肺炎でした。接種で免疫が弱っていたりウイルスが除けなくなり、症状が長引くんじやないかと思えます。そういう実例結構あるんですよ。

豊田…治療した時は良くなって、その後再び返すというパターンは何人かいました。栄養学的に見てもスパイクタンパクが除去しきれず、要は解毒しようとして体は試みますが、接種を続けるので、体が消耗するのだと思います。また接種によって免疫機能がおかしくなっていることも考えられます。

南出…実際、例えば、細胞の中からスパイクタンパクを作り続けることは考えられますか。

村上…初めは1か月でなくなるのではといわれていますが、論文数が増えるに従い半年、1年という感じになってきています。

小島…確かに言われたように、スパイクタンパクが影響

するのでですね。ただ日本では、それを測定したデータを見たことがありません。アメリカの論文では、ワクチン接種後に発症した心筋炎では、スパイクタンパクが血中から検出されており、日本でも血中スパイクタンパクが測定できるとよいと思います。ワクチン接種後、長期間症状が残っている人の血中から検出されれば、ワクチン後遺症の可能性が高くなるので、このような研究を進めることが大事かなと思います。

南出…豊田先生、実際現場で相談を受けておられる立場として、感じることはどうでしょうか。

豊田…日本人の8割はワクチン接種をしています。感染も増え、長引いている人もいます。なので、ワクチンで予防するというより、免疫をあげる方法を考えていってらうかと思っています。

南出…先生方、最後にお話しされたいことはないですか。

小島…世界中でワクチンを頻回に接種しているのは、日本だけです。イスラエルの人々は、4回目接種をほとんど行わなかったのですが、感染は激減し、全然問題は起こっていません。

村上…9月からXBB対応型ワクチンを接種すると、10月、11月にもう一度感染拡大がきて、12月にすごい山が来るのではないかと、思っています。やはり、免疫能力をあげることが必要で、そのため、免疫を測定することが必要だと思います。

南出…まさに、尿や血液で自分の免疫の状態や、ビタミン、ミネラルなど足りているか、足りていないか、一人ひとりがちゃんと自分の体の状態を判断できるようなことが大切だと思います。泉大津市では実現を目指しています。



新型コロナウイルス感染症からわかってきた最新の事実

- 海外では昨年春以降、追加接種は進んでいない。
- XBB 対応型ワクチンは、薬事承認段階において、マウスでしか試験をしていない。
- 繰り返し接種することで、免疫機能の低下や IgG4 抗体が誘導され、免疫が反応しなくなり、ウイルスを受け入れやすくなる。
- ワクチン副反応疑い報告件数は 36,441 件^{※1}、死亡報告数は 2,075 件^{※2}、副反応の症例だけで 1,000 種類以上ある。(7月28日厚生科学審議会資料から ※1資料1-1-1 ※2資料1-3)
- 添加物など、体に必要ないものを摂取すると、解毒に自分の大事な酵素やビタミン、ミネラルなど栄養を消費してしまう。大切なことは、「体に必要なものは足す、不要なものは引く」こと。

3 Lectures

「海外における新型コロナウイルスの感染状況とワクチン接種との関係」

世界各国で、今、どれだけコロナがはやっていくのか、データがあります。

2023年5月の最初は、9か国のなかで韓国が一番多く、日本は4番目でした。ところが、その後、他の国は減っているのですが、日本はぐんぐん感染者が増えて、6月の終わりになるとトップになりました。5月8日から6回目のワクチンを打ち始めた。途端に、感染者が増え始めました。これまでの世界のデータやこのことから、ワクチンを打つほど、コロナにかかりやすくなるんじゃないかと、思っています。

外国の接種データによると、昨年の春頃から追加接種をあまりおこなっていないんですね。日本だけ、どんどん打っています。

それから、気になるのは、どうも最近、一部の感染者が増えていることです。心配なのは、がんの種類によって、増え方が随分違うんですね。例えば、乳がんの超過死亡は、ワクチン接種前の2020年と比べて、2022年は5倍くらい増えています。ワクチン接種をすると、体の中に作られたスパイクタンパクが、乳がん細胞の表面にあるエストロゲン受容体aにくっついてがん細胞を活性化し、がんの進行を早める可能性があるのです。



小島 勢二氏
名古屋大学名誉教授

※スパイクタンパクとは
ウイルスがヒトの細胞へ侵入するために必要なタンパク質

「XBB 対応型ワクチン接種について考えてみましょう！」

9月にはXBB対応型ワクチン接種がはじまりますが、動物実験だけで、ヒトでの臨床試験は全くやられていないので、皆さんはもう一度慎重に考えてください。欧米では、接種した人の方が感染しやすいという風なことが常識になっています。

繰り返し接種すると、問題は、誘導される抗体が変わってくるということです。ヒト抗体は5種類あるのですが、その中の一つであるIgG4抗体が誘導されると、他の免疫系のいい働きを邪魔をして、反対に感染しやすくなってしまいます。この抗体は誘導してはいけない抗体です。初めのワクチンで誘導された抗体が新しいワクチンで生み出されるスパイクタンパクを不活化できないということ。スパイクタンパクがまた、山のようにはばまかれるのです。こういうこともしっかりと、考えないといけません。

では、どうしたらいいのかということですが、追加接種を立ち止まって考え、運動とか、栄養面とか、免疫力を復活させていくことが重要だと思います。



村上 康文氏
東京理科大学名誉教授

「大切なことは、体に必要なものを足す、不要なものは引くこと」

健康を維持するには、一般的には「栄養」「温める」「睡眠」「ストレスの除去」「腸を整える」「適度な運動」と言われています。胃腸で吸収された栄養素がすべて活用できればいいですが、コロナに感染すると、交感神経が優位になることで、副交感神経が低下し、消化吸収能力も低下します。一番問題となるのは、不要なもの（農薬や添加物など）を体内に取り入れると、解毒するのに自分の体に必要な酵素やビタミン、ミネラルなども大量に消費することです。では、どうすればいいのか。必要なものを足す、不要なものは引く、このバランスが重要になります。

コロナ後遺症で推奨しているのがファスティングです。腸の働きがよくない人が多いと診療で感じます。また、添加物が多く含まれている食べ物を体内に入れないだけで、自分のために栄養を使えます。

今まで食べてきたものの中で、不要なものを2割減らすことができれば体の負担も減ります。ぜひ取り組んでいただきたいと思います。



豊田 孝行氏
伏虎リハビリテーション病院 半農半医